

令和8年度 第4回 芦屋市上下水道事業経営審議会

日 時	令和8年7月25日（土）10：00～11：15
場 所	市役所東館3階 災害対策本部室（中会議室）
出 席 者	会 長 西尾宇一郎 会長職務代理 兵頭和花子 委 員 榊原和穂、山東要、酒井克子、神足雄太、法兼茂子、井手秀樹、 田中理生、岡崎哲也
事 務 局	事 務 局 上下水道部 長岡良徳 水道管理課 榊井大輔、寺田悠人、平野周 水道工務課 富松正貴、山本剛史、木津侑也 水道業務課 夏川龍也、山本直樹 下 水 道 課 白井宏和、山東千紗、高木道明、田中裕章、 安井久也、鵜飼雅浩 下水処理場 北村俊博、井上隆寛、木多信彦
会議の公開	■ 公開
傍 聴 者 数	0人

1 会議次第

1 開会

2 議事

- （1）芦屋市水道ビジョン（経営戦略）について
- （2）芦屋市下水道ビジョン（経営戦略）について

3 閉会

2 提出資料

- 資料1 芦屋市水道ビジョン（経営戦略）見直し案
- 資料2 芦屋市水道ビジョン（経営戦略）概要版
- 資料3 芦屋市下水道ビジョン（経営戦略）見直し案
- 資料4 芦屋市下水道ビジョン（経営戦略）概要版

3 審議内容

（西尾会長）

前回の審議会で、誰が作成したものなのかがわかるように、代表者の名前を入れておくのが良いのではないかという意見がありましたが、対応はいかがでしょうか。

（水道管理課長）

責任者といいますか、今回ビジョンの冊子ができましたら表紙の裏に市長からのメッセージを載せようと思っております、それも冊子を作成する段階でご案内できたらと思っております。

（西尾会長）

その他、前回のご意見等で可能なものは反映されているのではないかと思います。あと、改めて見ていますと、概要版にあるワニの口のことを本編には載っていないと思いました。水道ビジョンの22ページで「今後発生する老朽管更新並びに水道施設等の耐震化事業に向けて財政基盤の強化を図る水道料金の見直しが必要です」とありますけども、要するにもう給水原価が供給単価を超えているわけですから、「今後発生する」の前に「給水原価が供給単価を上回っており」とか、もうすでにそういう状況ですよってということがいるのではないかなという気がしました。

（水道管理課長）

なるべく専門用語を排して、わかりやすくするようには努めました。ただまだ全然できてないと思っていますので、これから表現等も考えていかないといけないかなと思っています。一

一般的にこのグラフのワニの口という表現の方が伝わりやすいのかなということでこういった表現をさせていただいているのですが、いずれにしても水道事業になじみのない方が読んでいただくことになると思いますので、平易でわかりやすい表現に改めたいと考えております。

(西尾会長)

ワニの口で表現するのはいいのですが、22 ページの水道料金見直しが必要というところも、これだけ見ると今は大丈夫だけど、今後いろいろお金がいるから料金上げないといけないというふうに読めてしまうのではないかと思います。もうすでに今も原価割れしていますよという表現がいるのではないかなという意味です。

(水道管理課長)

それもちょっと含めて、どういうふうに表現するかまた検討したいと思います。

(山東委員)

会長がおっしゃっていただいたことは、18 ページにはグラフで書かれているので、そこが課題ということで、その解決策の一つとして水道料金もご理解くださいという流れではないかと思えます。

(水道管理課長)

それも踏まえてそれぞれの項目にページ番号をつけさせていただいて、詳しくはこちらをご覧くださいということによって表現させていただきたいと思えます。

(山東委員)

下水道ビジョンでは、24 ページでこれまでの実施状況が整理されており、非常に市民の方にもわかりやすいと思えました。これまでに進んだことと、それでもまだ残っていること。そうすれば職員の皆さんが頑張っていることも伝わるでしょうし、その辺が水道ビジョンの方にもあってもいいかなと思えました。

(法兼委員)

水道ビジョンですが、グラフ等の色使いや文字が小さくて読みづらいなど感じる場所が多々あります。少し検討いただけるともっと見やすくなるので、せっかく作ってくださっているのにもったいないなと思えました。

(水道管理課長)

色使いの話ですね。改めます。

(岡崎委員)

水道ビジョンの 18 ページで、給水原価が供給単価を上回っているということは、単位当たりですよ。概要版では給水人口減と書いてあって、人口が減るから総額が減りますよという表現になっています。そこは考え方が揃っているのかが気になりまして、本当は人が減っているからということを表しているグラフがあるのであれば、そちらの方がいいのではないかなという気がしました。

もう一つは、概要版の持続可能な未来への戦略的転換のところですが、拡大の時代と最適化の時代という記載。時系列的に左が昔で右が今後を指しているというのはわかるのですが、見る人によっては両方とも目指しているように見えるのですよね。矢印などで左から右へというのをはっきりさせないと誤解されるかなと感じます。

(西尾会長)

基本的には、トータルのお話をしているので収入が減っていつているということでしょうね。人口減とそれから 1 人当たりの使用量が減っているということですからこのようになりますよね。

(水道管理課長)

後段について、ご指摘の通りですので表現をわかりやすく改めたいと思えます。

前段のワニの口のお話ですけども、どう表現すると伝わるかなというところで非常に苦心しまして、正しく言うとこれだけじゃなくて水利負担金の減少とかってこともある。それを説明すると情報量が多くなるのでどう表現するのかなというところで、65 ページの経営戦略のところの数字をグラフでイメージとするのですが、注釈を入れるとすると人口減のほうにわかりいいかなということでこういう表現になっております。ただ原価割れしているというところの説明も踏まえたほうがいいのかというご指摘もありますので、どんな表現がいいのかも

う 1 回確認したいと思います。

(西尾会長)

私が申し上げた原価割れしているというのは、ビジョンの方に書いてはどうかということです。概要版ではあまり細かいこと書く必要はないですし、せつかく見やすいと思うので、いろいろ入れるとわかりにくくなって逆効果かなという気もしています。

(兵頭委員)

料金改定しなきゃいけないという内容は散りばめられていると思うのですが、具体的に何年度頃から改定予定かというのは書かれていましたでしょうか。

(水道管理課長)

このビジョン経営戦略の方での記載はございません。あくまでも議会議案等の事項になるかと思います。

(西尾会長)

下水道ビジョンだと、赤字になるのが令和 11 年度からということが書かれていますが、決して令和 11 年度から料金改定するという意味合いで書いているものではないということです。

(兵頭委員)

下水道ビジョンの 60 ページでは、令和 11 年度から純損失が出ますということと、62 ページのロードマップにも改定の必要性を検討と書かれている。水道の方もいつぐらいからやるかもしれないよ、みたいな表現があると心構えとしては助かるのかなという感じがしました。

(西尾会長)

料金改定は議会に諮る事項でもあるので、いつとは載せられないと思います。ただ、水道はもう見直しが必要ですよって書いてある。下水道は検討という表現に留めてあります。その辺が微妙に違うところだと思います。

(水道管理課長)

今回あくまでこのビジョン経営戦略を審議会に諮問させていただいているのはこのビジョンと経営戦略の評価であって、料金改定をいつからするかというのではないのかなと思います。先ほどご説明した通り料金改定につきましては議会でご審議いただく内容となると考えておりまして、表現はこれぐらいで止めさせていただこうかなと考えております。

(西尾会長)

見直しが必要ですよというのは、値上げしないといけませんよということですから、ここまで踏み込んでいるのは近々にはしますよって感じですよ。いつからかはわかりませんが。

(田中委員)

水道ビジョンの概要版はすごくわかりやすいなと思って見ていまして、水道と下水道では情報量に大分と差があると思いました。市民の方がご覧になる情報量にも限界があるのかなと思いますので、もし可能であれば下水道の方ももうちょっとコンパクトにしてもいいのかなと思います。ちなみに水道ビジョンの方は生成 AI とかで情報を入れてまとめているのですか。

(水道管理課長)

AI を使わせていただきまして、空白を多めにとらせていただいたことと、フォントを大きくするというのと、ビジョンの情報をできるだけエッセンスでまとめたということです。

(西尾会長)

下水道ビジョンの方も可能であれば検討してみてください。伝えたいことが伝わらないことになってしまってもいけないので、その辺も考慮しながら見やすい形を考えていただけたらと思います。

(井手委員)

水道ビジョン、下水道ビジョンとも感想として、内容についての異論はございません。今日いただいた概要版ですが、市民にビジュアル的には見やすく理解しやすい内容ですけども、ここにある「拡大の時代」というのはどういう意味なのか、自前主義っていうのか。それから「ダウンサイジング」ですが、芦屋市の水道の場合どこがダウンサイジングできるのかなというのを教えていただきたい。

それから、職員数がどんどん減って技術の伝承をこれからどういうふうにしていくかというときに、一つにはアウトソーシングがあるのですが、現状から更にできるものが具体的にあるのかどうか。芦屋市独自の解決しなければいけない問題というのはどういうところかというのを教えていただきたいと思います。

その上で、例えば水道料金はこの概要版にもありますけど、「避けて通れない水道料金の議論」というのが市民にとっては重要であって、第3章の現状と課題のところ、その現状というのをもう少しきちんと整理された方がいいのではないかと思います。

例えば19ページの料金体系を見ると逦増料金制であることはわかるのですが、19ページの最後のところに本市では使用水量が基本水量に満たない世帯が約40パーセントあって、料金体系の検討が必要であると。また、その次のページでは水道料金は平均以下の水準となっているとあるけれど、現状と課題が入り交じっている、できればこれを整理して、現状では芦屋市の水道料金は非常に低額に抑えられているのだけれどもこういう課題があつて料金体系の見直しをやらなければいけないというところを書く方がより説得的ではないかと思います。

22ページのところでは、阪神水道企業団のことについて、受水費の軽減というのは芦屋市単独ではどうにもならない外的な要因として削除されているのだろーと思いますけど、やはり芦屋市の阪神水道企業団の受水費というのは93パーセントを占めているわけですから、水道料金にも大きな影響を与える要因だと思いますので、ここのところはやはり市民にわかりやすく説明していただければと思います。

(水道業務課長)

一番たくさんの方が使われている口径20ミリメートルの料金の比較で、阪神間で3番目に安いという表現と、あと基本使用料以内の方がたくさんいらっしゃるというのを書かせてもらって、委員ご指摘の通りのことを言いたいところなのですが、書き方が、ちょっと前後が逆になっているから伝わりにくいのかなと思ってまして、その辺りは意図が伝わるように考えてみます。

(水道管理課長)

私の方から概要版について、拡大の時代から最適化の時代につきまして表現の仕方を見直したいと思いますが、ダウンサイジングとか追加のアウトソーシングのご指摘がありました。今後施設の更新耐震化を進めていくに際しまして、管路の引き方を見直すことによって2つの管を1つにするとか、最短距離での管の布設をするとか、そういった形でのダウンサイジング、あと委託を踏まえた形で将来的な職員の最適化というのは考えていこうと思っております。

あとは阪神水道企業団の件について表現を削除させていただいたのですが、今回ご指摘いただいている通り阪神水道企業団の受水が大半を占めるというところもありますので、市民の方にどうやって伝えるかという視点でもう1回考えていきたいと思います。

(岡崎委員)

阪神水道企業団からもらう受水量をどうこうするというのは議論としてなじまないということが背景にあったように思いますので、そこは整理されるポイントになるかなと思ってます。

(西尾会長)

今言われた通りで、今回削除したもともとの原因は受水量の適正化であったと思います。それはなかなか難しいので、受水費の軽減って書き方がいいのかどうかかわからないですけど、やはり阪神水道企業団からの料金を安くするように努力するようなことは残しておくべきだろうと思います。

それともう一つ、19、20、21ページは順序が反対なのですよ。逆さまに入れ替えるという言われる通りだと思います。

(水道工務課長)

ダウンサイジングのサイズのことについては、毎年のように水道管の入れ替えをしまして、配水量が減ってきているということになると、ここまでの口径の管路がいらなくなる場合がありますので、その都度、例えば100ミリメートルの管が入っているところを配水量に応じて75ミリメートルにするのか、そういったことも今進めています。他には配水池について、

これも人口が減ってきている今においては大きすぎるという問題がございます。水質を確保する上では統合や縮小するというのが1つの手かなと思いますが、配水池は、例えば災害時にはたくさん水を溜めることができるというメリットもございますので、その辺をバランスよく今後検討しながらダウンサイジングを進めていけたらなと思っているところです。

あと委託につきましても、浄水場関係では委託を進めておりますが、直営ですのと委託に出すのとで、費用面ではそれほど大きな差がない状況でございますが、直営で維持しようとしたときに職員採用があまり進んでいないというのが現実でございますので、そうした事情も含めて現在委託を進めているというのが現状です。ただ今後積極的にどんどん委託するのがいいのかというの、バランスを見ながら検討を進めていけたらと思っているところでございます。

(井手委員)

41 ページの水質のところですが、おいしい水と安全な水というのは違うものと思います。おいしい水の要件って何なのかっていうのを定めた記憶があります。水質検査の概要というのが次のページに書かれていますけど、これは安全な水ということについては満たしていると思うのですが、おいしい水の要件というのは例えば残留塩素であるとか、臭気強度がどうかという、そういう要件があって初めて判断されると思います。おいしい水を供給して欲しいという要求は、今の水があまり美味しくないという裏返しだと思うので、この点どういうふうに説明されるのか教えていただきたい。

(水道工務課長)

過去には市広報誌で「おいしい水」の指標や要件を掲載していた記憶がございますが、その「おいしい水」をどう定義するかは難しい問題です。また、その要件は浄水過程においてコントロールできるものではございません。残留塩素以外にも様々な要素があり、原水に自然に含まれる成分によって「芦屋川の水はおいしい」「奥池の貯水池の水はおいしい」といった評価が生まれているのだと思われますが、その点を明確にお示しするのは難しいところです。

(西尾会長)

おいしくないと思っているのではなく、おいしい水を続けて欲しいという意味じゃないかなと思います。

(井手委員)

阪神水道企業団の水であれば高度浄水処理をやっているわけですからおいしいというふうを感じる。芦屋市としてはどうしようもないところではあるのですね。

(水道工務課長)

その93パーセントを阪神水道企業団からもらっているという点では、そのコントロールはしようがないですね。だから会長がおっしゃってくださったように、これから品質をよくしていったらいい。おいしい水を供給しようということじゃなくて、ある一定の水準は維持していくというメッセージを込めてと理解しております。

(山東委員)

昭和59年においしい水研究会が発表した基準みたいなものがあるそうです。それは一定の範囲に入っていれば「おいしい」と言えるということのようですので、確認いただいて入っていれば、胸を張って供給していると言えるのではないかと思います。

(神足委員)

水道ビジョンの概要版で、職員数が令和13年に20人と書いてあるのですが、本編のほうではどこに書かれてありますか。

(水道管理課長)

これは経営戦略の方になるのですけれども、職員数については将来的には計画の最終年度には委託を進めた結果ということで計算しています。

(神足委員)

65 ページを見ると、収益的支出の職員給与費はずっと横ばいになっています。

(水道管理課長)

職員数は減ってはいるのですけれども、単価が上がっている関係で職員の数ほど給与費が減ってない。基本給のところが大きく減らないのと、あと社会保険料なんかも高齢化に伴って増

えていっていますので、結果として人は減っているけどもそこまで給与費が減りませんというような形になります。

（神足委員）

先ほどダウンサイジングのご説明があったと思いますが、民間委託できるところは直営と比較して安いのであればということは理解しますが、一方でやはり職員の技術継承をしないといけないということはあると思いますので、そこは考慮しながら職員を減らすのが正しいのかどうなのかというのは検討してもらえればと思います。

（水道工務課長）

ダウンサイジングと委託というのは、関係性は特にはないですよ。サイズを小さくしたから委託できるのだというのはないということと、守るべきところは守らないといけない。公の施設として直営でやっていくべきところは守る。そうじゃなくてもできるところは民に出す、民に出すときに直営でやるのが安いのか委託する方が安いのかそこを検討するということになるかと思います。例えば漏水したときに直営でまだこちらが管理して、職員が行って仕切弁の操作をえています。そういうところはやっぱり守っていかないといけないと思っています。どんどん人が減っていいというものではないということをご理解いただければと思います。

（神足委員）

新旧対照表で、業務係と給水係の内容変更とあるのですが、どのように変わったのでしょうか。

（水道工務課長）

以前、給水係の業務を業務課業務係が行っていた当時の業務内容の記載が、そのまま残っていたものがございましたので、この度整理いたしました。

（榊原委員）

概要版のところですが、職員数が減ってコスト削減とまでは言えないような気がするのですが、この「経営努力（コスト削減）の成果」という表現がちょっと気になりました。委託が全部コストダウンにつながるかというと、必ずしもそうではないですし、特にインフラにおいては人を減らせばいいというわけでもないような気がします。あまり人を減らしてコスト削減ということを大きく掲げないほうがいいのではないかと思います。

（水道管理課長）

表現の方でちょっとまた検討させていただきたいと思います。

（岡崎委員）

水道ビジョン概要版では、「収支バランスの悪化」で「令和 13 年度に経営赤字へ転落の危機」とあるのですが、経営赤字というのは何を指していますか。65 ページを見ると、当年度純利益も令和 8 年度からずっとマイナスになっているので、概要版の表現とどうリンクしているのかわからないのですが。

（水道管理課長）

いわゆる純損失のことを言っているのですけれども、このビジョン経営戦略については令和 9 年から 13 年のものになるので、最後の令和 13 年度においての状況について書かせていただいています。ただおっしゃるように純損失が発生するのは今年度の決算ぐらいから見込まれておりますので、その表現、この矢印がクロスしているところのタイミングに見えますので、今の表現だと誤解を与えちゃうかなって思うので修正しようかなと思います。

（岡崎委員）

下水道ビジョンでは「純損失が令和 11 年度に発生します」と正確に表現されています。経営赤字というのは確かに市民の方にわかりやすいからこうされたのかなと思ったのです。

（西尾会長）

概要版の「経営赤字へ転落の危機」のところについて、令和 13 年度に赤字になる可能性があるかと読めるのですが、そうじゃないですよね。もうすでに赤字って書かないと。その方が衝撃的でいいかわかりませんけど。

（下水道課長）

ご意見にありました、下水道ビジョン 62 ページに添付のロードマップの中の、使用料改定

に関する記載ですが、今後、水道料金を改定することとなった場合には、下水道使用料についての議論に発展することも考えられますので、その辺りも踏まえ、表現については改めさせていただきます。

（西尾会長）

確かにそうですね。その話が出てくるかもしれませんね。

そうしましたら、他にご意見がないようでしたら、ここで議論終了とさせていただきます。本日の議論を受けて修正いただいたものをパブリックコメントに出すという形ですね。その最終版については、私と兵頭委員で確認させていただくことでよろしいでしょうか。それでは、そのようにさせていただきます。

では、最後に事務局から今後の予定をよろしくお願いします。

（下水道課長）

まず、パブリックコメントにつきましては、9月中旬から10月下旬ごろまで実施を予定しております。また、次回の審議会ですが、11月21日土曜日10時からの開催を予定しておりますのでよろしくお願いいたします。

（西尾会長）

それではこれで今日は閉会とさせていただきます。ありがとうございました。